

地域活性化、災害時の情報共有…

インターネットなどの情報技術（IT）を地域で役立てようと、「神戸ITフェスティバル」が15日、中央区東川崎町1の市産業振興センターで開かれた。地域活性化や災害時の情報共有など多彩なテーマで、最新技術や新たな可能性を探る取り組みなどが紹介された。

（直江 純、広岡磨穂）

ITの新展開模索

中央区

企業や大学、NPO法人など地域を挙げて関係者が集まるイベントとして初めて開催。27ページが出展し、メーカーが画面に触れて操作するタブレット端末など最新機器を紹介したほか、OBE鉄人プロジェクト（長田区）などの地域団体も活動をPRした。また、テーマごとに約40の分散会も開かれた。

新型インフルエンザの流行時などに備えた在宅勤務のあり方や、障害がある人でも読みやすいホームページの作り方を、デジタル技術を社会に生



シンポジウムでITによる地域貢献を語り合う竹中ナミさん（右）らパネリスト＝中央区東川崎町1

フェス初開催 最新機器紹介やシンポ

かす提案があった。

岡本商店街振興組合

（東灘区）の松田朗副理

事長と有馬温泉観光協会

（北区）の金井啓修副会

長は地域おこしをテーマ

に対談。交流サイト「ツ

イッター」で連携してい

る2人は「神戸の震災あ

とときにツイッターがあれ

ば地域のつながりも保て

たのではと語り合った。

締めくくりにシンポジ

ウムでは、社会福祉法人

フロップステーション

（東灘区）の竹中ナミ理

事長が「私たちは障害者

を『チャレンジド（挑戦

する人）』と呼ぶが、被

災者も災害に立ち向かう

という意味では同じ」と

話し、ITによる被災地

支援を訴えた。実行委員

長の力宗幸男・県立大

学院教授は「ITが生み

出す人のつながりを生か

し、ITを神戸の新しい産業として育てたい」と抱負を語っていた。